

振興計画見直し等に係る地域説明会における意見交換

日時	H22.10.1 19:00~20:30
会場	西部地区公民館 大会議室
出席者数	25名(男性20名 女性5名)
質疑の内容< 市長、 質問者 >	<p>【協働のまちづくり】</p> <p>目指す方向性に、寒河江市の特長である協働、ボランティアとある。このたびのワークショップでも危険な大木の除去について、地元でできることは地元でという話もあったが、わが白岩地域では、他の地域に比べ遅れているのかなと、特長と言えるのかと思った。</p> <p>まちづくりを進めるには、行政、企業、市民の三者が役割分担してやる、グランドワークの手法で、二の堰整備や花咲かフェア、フラワーロードなどたくさんの協力をいただいております、寒河江らしいまちづくりのやり方だと思っている。白岩が遅れているということではなく、全体として協力してもらっているのが、寒河江らしいという捉え方である。</p> <p>【農業(さくらんぼ)振興】</p> <p>アンケート結果や将来都市像でさくらんぼが出ているが、アピールが弱いのではないかと。対抗馬の東根は大々的に宣伝している。東根は生産日本一だろうが、寒河江はうまさで日本一と全国に配信したらどうか。東根は寒河江の種飛ばしやマラソンを、開催時期も寒河江より前に実施しマスコミで大きく取り上げられている。市でもっと考えて、JAとも連携してもっと強烈にアピールしてはどうか。</p> <p>今年は量は取れたが質は良くなかった。観光さくらんぼ園の客数は、一昨年、去年と負けていたが、今年は東根、天童より客数多く、県内トップの座を奪い返した。天候にもよるが、トップの座を明け渡すわけにはいかない。さくらんぼ農家の皆さんは、品質に自信と誇りを持っている。トップセールスで市場関係者と話しても、寒河江産の評価は高い。品質確保は基本線で、これまで評価を保ってきた。その結果、今年の観光さくらんぼ園の実績として、品質の良さが出た。来年以降もトップの座の確保のため、おおいに努力していく。来年に向けて、JAと相談して、観光さくらんぼ園のオープンを前倒ししていく。</p> <p>イベントで負けているとの御指摘だが、東根が対抗しているのに寒河江は横綱相撲をとるように構えていて、うさぎとかめのようになっている。イベントについては、象徴的なイベントの種飛ばしを抜本的に大掛かりに見直していく。いろんなものを少し見直しても小粒になるので大々的に見直していく。</p> <p>また、さくらんぼ以外のアピールも併せて考えており、最近のイベントもマスコミでも取り上げられ、市外の人にも寒河江に来てもらっている。力を蓄えていって6月に爆発させて頑張っていきたい。</p>

【若者のまちづくり、学童クラブの設置】

協働や地域をはっきり打ち出している感じや、高齢者を大事にしている感じがするが、若い人が見えない。若者がみこし祭りだけでなく、日常的に町に出てくる方策はないだろうか。焼き鳥バルやチェリーマルシェは若い人がやっているのかもしれないが、若い人や学生が集まって何かやるとかもう少し若い人の活動が見えるように考えてはどうか。

子育てに意見でていたが、高松、醍醐には学童クラブがない。10名集まらないとダメということで諦めており、白岩の学童クラブまで送っているようだが、交通費の補助を考えてもらえないか。

若者のまちづくりへの参加は大きな課題。みこしでも若い人がなかなか入らないとの声がある。駅前でのイベントでも子どもさんをターゲットにすると若い親御さんがついてくるということもある。若いお母さん方と話をする機会に様々意見を聞いたりしている。商工会青年部や青年会議所も活動している。高校生ボランティアも市内に2つあり、そこからも話を聞いているが今はそれぞれが独自の活動をしているので、行政もサポートして横のネットワーク、情報交換の場をつくっていくことが必要。そういったことが、ひいては、婚活につながることになる。

学童クラブについては、今年から10人ではなく5人でもとハードルを下げた。ニーズがあればつくると言っているが、実際はあまり手が上がらない。地元にならぬから諦めている人もいる、発掘すれば必要な人が出てくると思う。
(柴崎子育て推進課長)

寒河江市ではこれまで地元の人を中心となって立上げを行ってきてもらっている。希望者と地域で連携して、今後のニーズも見据えて市に御相談いただければと思う。

白岩の学童の運営委員しているが、高松から2名、醍醐から2名、三泉から1名来ている。障がいのある子もおり、特配もらっているが指導員は相当苦労している。10人から5人になったとすれば、高松、醍醐にも設置してもらえればと思う。

制度が変わったことを地域の関係者の方に改めてお知らせして、考えていく。

【高齢者の見守り】

見守りネットワークで安否確認は大切であるが、それには、情報提供と共有が必要である。醍醐で63歳の女性が、水道を止められて、堰で洗い物をしていた際、誤って亡くなった。水道を止められていることを地域の人も民生委員も知らなかった。何故教えてくれなかったのか聞いたら、水道課では個人情報保護条例の問題があるということだった。生命に関わる場合なのに、生命よりも優先する条例などあるのだろうか、憤りを感じる。情報がなければ見守りもできないと思うがどうか。

水道を止められた方は、一人暮らしであり、どんな生活をしているのかはなかなか把握できなかった。周囲の人も気が付かない場合は多い。地域福祉

計画は、そんなことのないような地域を作るためのものである。いろんなケースに対応するきめ細かさが必要で、形ばかりのネットワークではだめ。ただいまの例に限らず、一人暮らしの人が人知れず亡くなるケースはあるので、地域でよく話し合ってもらって、よりきめ細かい、実際に機能するネットワークを力を合わせて作っていくことが大事である。市としては、そのための支援体制をつくりたい。いろいろと知恵をもらいたい。

こういうケースでも条例を守らなければならないのか。

水道を止められる方はこういうケースばかりではないので、個人情報提供や共有については、一概に条例でどうこうすることはできない。それ以前の問題として、一人暮らしの方のサポート体制がうまくできるのかどうか、周りがどう気づいてどう対応していくか、ケースバイケースで見ていくことが必要。一般論としては、こういう場合に条例の適用除外になるとは一概には言えないが、事例、事例によって考えていくことになるのではないかと。いずれにしろネットワークは実際機能しなければならない。我々も反省のうえに立って、更によりよい体制を作りたい。

【婚活、農業振興】

若者の定住や婚活が上がっているが、全国的に農業従事者は65歳以上と高齢化している。所得が低いと、若い人は農業に就業しない。長野県の川端村では年収2千万円以上で、都会から若い女子が多く来ている。夏は働いて冬はハワイに行く。レタスの産地だった。寒河江市も農業後継者の確保にもっと力を入れてほしい。

都会でも適齢期の女性は結婚したいはず。さがえは景観がよく、住みやすいので、積極的に都会にPRして出会いの場を豊富に作ってはどうか。稲刈りツアーや宿泊研修などいろいろ考えられると思う。農業従事者の若者が希望を持てるようにしてほしい。先祖が大切に作った田畑が荒れ、里山が野原化している。収入の上がる方法を真剣に考えてほしい。

今年の2月の県内の農業従事者は64,000人で、5年で21,000人減だった。しかし、新規に取り組む人はここ数年増えている。従事者を増加させるには所得の向上が一番の要素である。規模拡大など、引き続き支援、補助していく。

昨日、阪神デパートの果物売り場の担当者が来たが、今は「寒河江のさくらんぼ」だけでは売れないと言われた。「寒河江の さんの作ったさくらんぼ」でないと高く売れないと。付加価値、他と違うもの、少し高くても品質がいいもの、安全安心で信頼があれば、値段が高くても買う。他と違うことをアピールしなければならない。高原野菜など、高原さくらんぼの食味も違う、時期もずれるので、付加価値が付くのではないかと断っていた。個別商品、生産者の顔が見えるものにプレミアムを付けて売っていくことが大事。さくらんぼのように品質のいいものを作っているから、行政が責任を持って都会に出していく。少しでもプレミアムをつけられるような売り方が必要と思う。試行錯誤しながらだが、知恵を高めブランド化を進める。即

効性がなかなかないだろうが、少しずつ進めて規模を拡大していく。

【行政運営】

行政だけでなく、JA、商工会、農業委員会が連携すると活力のあるアイデアが出ると思う。今までのような縦割り行政でやるのではなく、連携して課題を出し合うことが大事である。

はっきり言うと役人は商売が下手。商売のプロを使って戦略を練ることが大切と思う。行政は商売では勝てないので、そういう方の知恵を借りながら、これまでのことを反省しながら取り組んでいく。